

令和3年度決算における財政指標

経常収支比率

地方自治体の財政状況を判断するのに用いられる数値のひとつに経常収支比率があります。

これは毎年経常的に収入されるお金が、経常的な支出にどのくらい使われたのかを割合で示した数値です。この数値が低いと自由に使えるお金が多く、財政にゆとりがあることになります。一方、数値が高くなると使いみちが決まった支出が多く、財政状況は厳しく硬直化しているといえます。

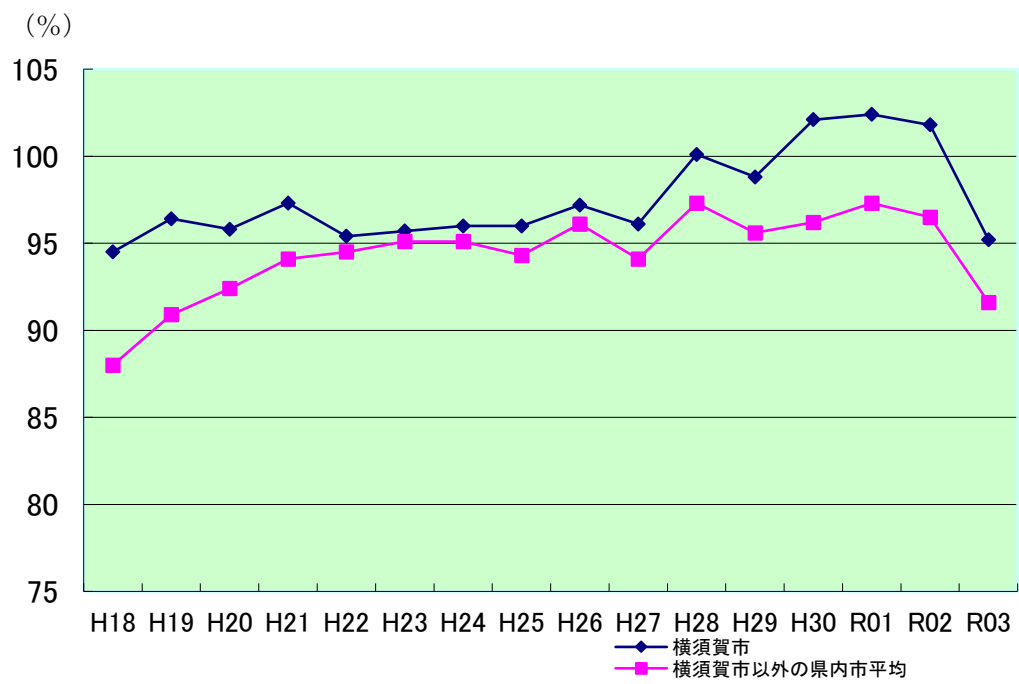
本市の令和3年度の経常収支比率は、前年度比6.6ポイント改善し、95.2%となりました。

これは、経常的な収入では新型コロナウイルスの影響で税収が落ち込むと見込まれたことなどによる地方交付税の増などにより約54.7億円増加したことに対し、経常的な支出では芸術劇場公債費の償還終了により公債費等が減少したことなどにより約6.2億円減少したことが要因です。

これはあくまでも令和3年度固有の特殊要因であり、近年でいえば、障害者福祉や児童福祉の充実、行政サービスの多様化などにより全国的に経常収支比率は高い水準で推移しています。

今回のような特殊要因を除けば、本市も例外ではなく、数値は上昇傾向にあると分析しています。

経常収支比率の推移



年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03
横須賀市	94.5	96.4	95.8	97.3	95.4	95.7	96.0	96.0	97.2	96.1	100.1	98.8	102.1	102.4	101.8	95.2
県内市平均	88.0	90.9	92.4	94.1	94.5	95.1	95.1	94.3	96.1	94.1	97.3	95.6	96.2	97.3	96.5	91.6

※県内市平均は横須賀市を除く。

財政調整基金

財政調整基金は、地方公共団体の健全な財政運営を確保するために設置した積立金で、いわば地方公共団体の貯金です。経済事情の変動等による減収、災害により生じる予期せぬ支出・減収を埋めるときや、緊急性の高い大規模な建設事業の経費等に充てることとしています。

本市では平成12年度に設置し、令和3年度末残高は約90.6億円となっています。

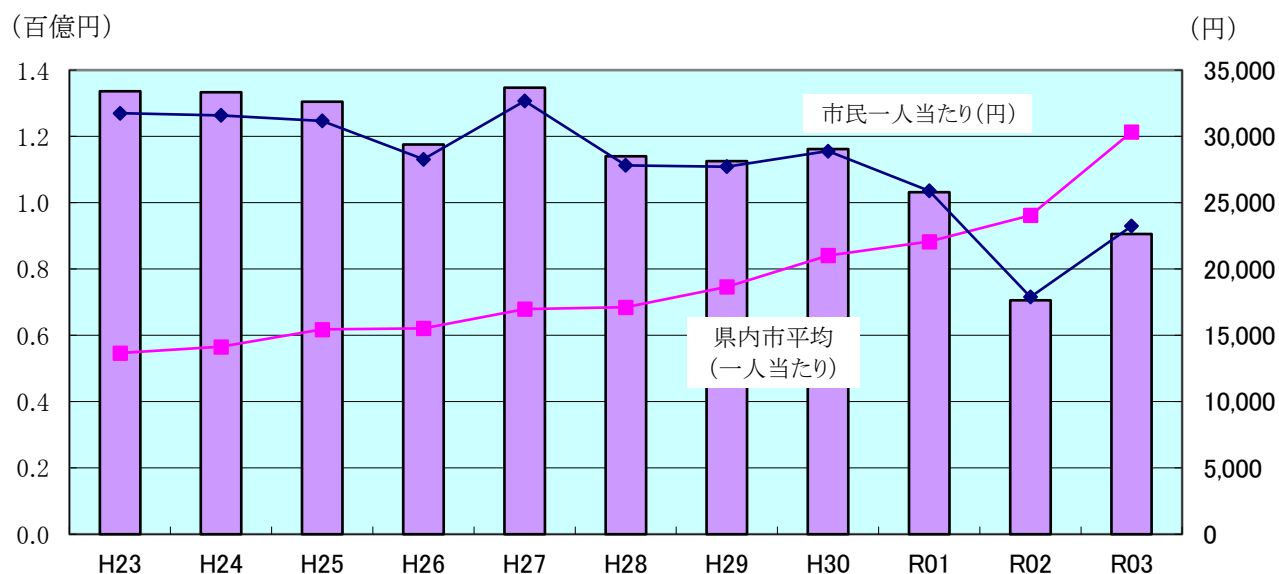
法律により前年度の実質収支については、その半分以上の額を財政調整基金に積み立てるか、市債の繰上償還の財源に充てることと定められています。本市では、令和3年度決算で生じた約80.5億円の実質収支のうち40.2億円を財政調整基金に積立てました。

本市では平成14年度以降、毎年度生じている歳入不足を補うために財政調整基金の取崩しを行っています。行政改革による人件費、公債費をはじめとする経費の抑制のほか、未利用地の売却や特別会計からの繰入金の調整など臨時的な歳入の確保に努めておりますが、市税の減少や健康・福祉費の増加などにより、近年は残高が減少傾向にあります。

令和3年度の財政調整基金の取り崩し額は約0.4億円でした。令和2年度と比べると約56.0億円減少しましたが、主な要因は、国の見込みよりも税収が上振れるなど令和3年度の特異的な要因により想定よりも収入が増えたことや、令和3年度は新型コロナウイルス感染症緊急対策基金への積み立てを行わなかったことです。

厳しい財政状況の中、基金の取崩しに頼らざるを得ない状況が続くと思われますが、今後の財政運営に必要な基金残高を確保できるよう努めていきます。

財政調整基金残高と一人当たり残高



財政調整基金残高(棒グラフ)は左軸、一人当たり残高(線グラフ)は右軸で表示してあります。

※県内市平均は横須賀市を除く。